

タイトル	2025 年度 共同教育学部国語専攻「学校推薦型選抜」
評価のポイント	【小論文】 筆者の見解に対して、自分の考えを的確に述べることを求めた。筆者の言うところの「待つ」という時間に耐えられないで為す知識や情報へのアクセス」について、本文の内容を踏まえた的確な回答を提示できるか、課題の理解力・論理的な思考力・文章表現力など、総合的な観点から評価した。 評価にあたっては、以下の点を特に重視した。 ・問題文の内容をよく理解し、設問意図に沿った解答ができているか。 ・問題のテーマに関連した基礎的な知識を持っているか。 ・解答の記述に当たって正しい論理の運びができているか。 ・解答の論旨が明快であるか。 ・適切な表現ができているか。誤字・脱字はないか。文章に乱れはないか。 ・制限字数を満たしているか。極端に短い答案になっていないか。 永田和宏（2018）『知の体力』新潮新書 pp.196-199 【小論文解答例】 筆者は、現代において「待つ」という時間に対して誰もが不寛容になり、インターネットの普及によって、知識や情報の獲得に必要な時間と手間が少なくなったと述べる。このことを筆者は一概には否定しないが、二つの問題点を挙げている。一つ目は、「知」の獲得の手軽さである。あまりにも手軽に手に入ると、私たちに「知」に対するリスペクトの念が湧いてこなくなるのではないかということである。二つ目は、「知」へのアクセスの直截性である。知りたい情報に直接導いてくれるのは効率的ではあるが、偶然の出会いという形での「知」への遭遇は起こり得ないと指摘する。 本文を読み、私は日頃の学習の仕方を振り返ってみた。例えば辞書について、紙の辞書は全体を眺めることで、副次的な知識も得られると言われ、私もそれを実感した経験がある。だが普段は電子機器を利用して調べることが多い。また、目当ての書籍をインターネットで購入すると、私が興味を持ちそうな別の書籍が次々に提示される。それによって読書の幅が広がっているような気がしていたが、あくまでも自分の興味の範囲内のことであって、筆者の言う「偶然の出会い」とは本質的に異なることに気付いた。私は、現代にあっても、先人が構築した「知」に対して敬意を払い、効率だけを求めず、「待つ」時間に耐える心のゆとりを持ち、偶然得られる「知」との出会いを楽しむことが大切だと考える。 (584 字)

【面接】

調査書・志願理由書の内容を踏まえて、大学で学ぶ姿勢と国語教育に対する探究心について質問した。また、対義語を答える問題を出し、対義語を考える上で、意味以外にどのようなことを考えるべきか尋ねた。これに対する返答の的確さや表現の適切さ等を評価した。

評価にあたっては、以下の三点を特に重視した。

- ・教職に就く強い意志を持っているか。
- ・質問をよく理解した上で返答しているか。
- ・国語科で育成が目指される資質・能力を十分に備えているか。